

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200335		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム向町		
所在地	岩手県宮古市向町2番34号 坂下賃貸ビル3F		
自己評価作成日	令和4年11月18日	評価結果市町村受理日	令和5年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が居心地よくゆったりと過ごせるように、それぞれのペースに合わせてのケアを職員は心掛けています。面会はコロナ禍で制限されているが、利用者様が不安なく過ごせるように毎日のレクリエーション他、行事を工夫し楽しんでいただけるよう取り組んでいます。ご家族が通院などで来所された際に生活の様子など報告をし、遠方の方でなかなか会うことが難しい方には広報を送り少しでも安心していただけるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、中心市街地にあり、高層ビルの3.4階に設置されている。建物は市指定の高層避難所となっており、災害用品の保管、避難者の受け入れ体制が整っており、地域の防災の一翼を担っている。コロナ禍で地域住民との交流が制限されるなか、小学生からのDVDに収録された合唱が児童代表者から贈られ、お返しに手作りの作品を渡すなど、地域との交流を大切にしている。運営に当たっては、事業所の理念を職員間で共有し、利用者の残された能力を活かし、利用者と職員が共同で作業するなど、家族的な雰囲気の中で介護サービスを提供している。外出機会の少ない利用者が楽しめるよう、多くの種類のレクリエーションを準備しており、歌好きな方も多くカラオケなども楽しむことができています。さらに、職員会議や個人面談を通じて、職員の要望や提案を受け、設備の拡充と業務の改善を図るとともに、資格修得の働きかけと支援を行い、スキルアップによるより良い介護サービスの提供に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月23日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の見える場所に理念を掲示している。不安な時、迷った時など理念を振り返って実践している。開所時からの理念であり職員に意見を聞いてみるが変更には至っていない。	開所時に作成した理念を職員会議等を通じて共有し、利用者は残された能力や要望に沿ったお手伝いなどをし、職員は利用者と一緒に、家族的な雰囲気のもと日々の介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は必要な場合以外は外出を控えているが、理容等は近所のお店を利用する事で交流を持っている。	コロナ禍により行動が制限されるなか、DVDに収録された小学生の合唱と利用者手作りの作品を交換し、また地区の世話役から広報等を入手するなどして、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設からの活動はないが、認知症の相談などあった場合は随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員に活動報告、広報等を配付しきつづき書面開催としている。文書等の意見は得られていない。	運営推進委員の方々に質問、意見等記入していただく用紙を配布しているが記入は見られていない。会議の資料を直接手渡しをして説明するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	緊急時他、相談事は日頃から連絡を取っている。運営推進会議の書面提出時は直接趣き報告している。	市からの情報はメールや文書でいただき、防災ラジオから災害情報を取得している。代行して要介護認定申請を市の担当課に提出している。利用者に欠員が出た際には、地域包括支援センターや各居宅介護支援事業所と情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス開催に合わせ身体拘束適正化の会議を開催し、ケアを振り返り話し合っている。身体拘束に繋がる恐れについても確認し意識の向上に取り組んでいる。防犯上の理由から19:00～6:00までは玄関の施錠を行っているが、日中は施錠していない。	職員によるカンプレンスの際に、身体拘束のチェック表により、職員の行動を振り返るほか、スピーチロックなどについて話し合っている。また、業務の中で気が付いた場合には、落ち着いた時に職員間で注意し合っている。身体拘束の事例はなく、玄関は夜間のみ施錠している。居室の窓は、転落防止のため一部施錠している。転倒予防の赤外線センサーを活用している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎日の申し送りで情報共有し、日々の介助の中で言葉づかいや態度など振り返り、虐待に当たらないかを検討し防止に努めている。新しい職員には研修で意識の向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者は現在いないが外部での研修に参加し学ぶ機会をつくっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容を十分に説明し、疑問点などないか確認しながら契約内容を理解と納得していただいたうえで契約の締結をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見、要望は日頃の会話から聞き取り反映させている。ご家族への連絡の際に利用者様の近況を伝え意見、要望等は聞き入れている。内容はケアプランにも反映させ職員間で共有している。	家族の面会時に意見等を聴くほか、年2回発行の機関紙により、利用者の生活状況を知らせ、意向を伺っている。また、利用者のお手伝いや食事、ゲームなどの要望を聴き取り、業務に活かしている。	利用者と家族との関係をつなぐ支援は大切なことから、以前作成の「おたより」の再発行について検討することを期待します。手作りのお知らせにより利用者の近況を伝えるとともに、家族の意見等を伺う工夫が望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りで報告、連絡、意見の交換ができています。日常の業務への意見は話し合いをして解決するようにしています。	事業所内での乾燥が気になるとの職員の提案を受けて加湿器を設置し、年間の行事予定は職員間で話し合っ決めていく。個人面談は年1回管理者が行っており、勤務希望についても随時対応できている。また、資格取得の支援や夜勤対応など柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望、要望等は可能な範囲で応え、無理のない勤務体制をとっている。研修等の参加の励みと資格取得に対する費用負担の支援があり習得後は給与への反映がされている。		

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得へ向けてのセミナーへの参加等にバックアップしています。参加した職員は内部研修として報告し職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協会の会議他、研修等の参加が減っているため他事業所との交流はあまり出来ていない。法人の施設間では情報共有出来ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の状況をご家族、サービス関係者に情報を得ている。ご本人にも面会して不安、要望等の確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思い、不安、要望を理解し信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族の話を聞き必要な支援を見極め、今後は想定してのサービスの提案もしている。職員も情報収集と必要なケアを考えながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意なこと、好きなことを見つけて一緒に行う。その人らしさを大切に関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る範囲での通院の付き添い、電話、面会等の協力をお願いしている。長い間、面会が出来ていないご家族には広報誌を送り生活の様子をお伝えしている。		

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や人と会う機会は減っているが、馴染みのお店など出来る範囲で関りを持てるよう支援に努めている。	受診の帰りに知人が訪ねてくれたり、親戚がおやつを持ってきてくれたりしている。昔食べた懐かしいおせんべいやおひねりなどを職員が聞き取って購入してくることもある。理容はほとんどの方が事業所に訪問する理容師さんに散髪してもらっているが、1名の方は馴染みの床屋さんに職員の付き添いで出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士の会話につなげるなど1人1人の性格と利用者間の関係を配慮しながら負担なく楽しく暮らせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の相談等はないが、ご家族にお会いした際は挨拶をして近況を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとりながら、本人の意向や思いを把握し、気づいたことは職員間で共有している。本人より確認が難しい場合はご家族に伺い利用者様にあった支援を考えている。	入居前の生活様式や残された能力を活かし、お手伝いや職歴を考慮してレクリエーションなどのまとめ役をお願いすることもある。新聞は利用者の希望で2種類を購読している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、本人より性格、趣味、生活歴の聞き取りをしている。入居前のサービス利用担当者に情報をいただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで、その日の過ごし方と食事、水分摂取量、排泄等の心身状態を把握して支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に管理者と計画作成担当者が本人とご家族の意向、要望等を確認し必要な支援を話し合い介護計画を作成している。定期的カンファレンスで話し合い現状の見直しをしている。変化があった場合はその都度ご見直しを図っている。	計画は、短期目標3か月、長期6か月で、6か月ごとに見直している。職員によるカンファレンスとアセスメントを経て、管理者とケアマネによるモニタリングを行って原案を作成し、家族への説明、意見を伺っている。医師の指示や職員である看護師の助言も、計画に反映させている。	

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、毎日の申し送りで情報を共有している。変化等あった場合は連絡帳に記入し周知している。定期的カンファレンスで話し合い見直しをして支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じ通院他、福祉用具の活用など快適な生活が送れるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の機会が減っているが、毎年恒例の小学校との交流会他、近所の美容室に散髪してもらうなどできる範囲での交流を継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望する病院を主治医に入所当時から定期的に受診している。他、利用者様の状態に合わせ訪問診療も受けている。	入居前のかかりつけ医を家族同伴で受診している。家族の要請により職員が同行する利用者もいる。受診の際には、近況を口頭で伝達しているほか、バイタルチェック表などを託している。受診後は聴き取り、記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問されている。訪問日以外でも急な体調変化など不安があるときは看護師に相談し適切な対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院関係者に必要な情報を提供し、経過をみながら退院後の生活をご家族と病院関係者と相談している。		

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当事業所では看取りを行っていないことを説明し理解を得ている。重度化が進んでいる利用者様に関してはご家族と今後のこと話し合い特養の申し込みをお願いしている。対応できる範囲でご家族の希望に応じている。	重度化した場合の対応を入居時に説明し、同意を得ている。施設内での看取り経験は無く、重度化した場合には、改めて家族等の意向を確認し、医療機関等に移送している。終末期のケアについては、職員である看護師、の指導を得て対処している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はいつでも確認できる場所に緊急時対応マニュアル掲示している。経験を重ね落ち着いて判断し対応できるようになってきている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回、昼夜を想定して火災避難訓練と年1回、津波の日に水害を想定して避難訓練を実施している。水害時の市の指定避難ビルとなっており同ビル住民と地域住民との協力体制を築いている。	年2回、建物の住民の協力を得て消防署員立会いで避難訓練を実施し、講評を今後の訓練に活かすこととしている。ハザードマップでは水深地域となっており、建物が市指定の避難場所となっている。市の布団や食材が確保され、食材3日分とガスコンロなどを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への声掛け、言葉遣い、声の大きさに気を付け接している。入浴、排泄等はプライバシーの確保に配慮し対応に気を付けている。	個人情報、パソコンに入力し、パスワードで管理している。プライバシーに関する事項はファイルにまとめ、緊急時使用の同意を家族から得ている。失禁した場合の言葉遣いや誘導には配慮している。入浴の異性介助については利用者の要望を尊重し、居室への入室は、声掛けノックを励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望、要望等は可能な範囲で対応している。自己決定できる方は、その都度希望を伺っている。自分から考えを言えない方には耳を傾け自己決定できるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の、その日の体調や気分、他利用者との関り方等を観察しながら一人ひとりのペースで過ごせるよう職員は配慮している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室と床屋に来ていただきカットしていただいている。洋服は自室でご本人が自由に選んでいただいている。出来ない方は職員がお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りのメニューの際は出来る方には食材の下ごしらえも手伝っていただいている。他、季節のものを提供するなど食事を楽しめるようにしている。食器拭き等、片付けも手伝っていただいている。	朝夕のおかずは、1週間分注文し冷凍食品が届けられる。ご飯、味噌汁と昼食は自前で調理し、昼食には手作りの物を1品は準備しようと心がけており、カレー、シチュー、ひつつみ、餃子等、利用者も参加して作っている。季節のお煮しめや恵方巻なども取り入れており、食べやすい様に刻みやとろみなど手をかけている。おやつはイカせんべい、ねじり菓子など、地元のものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量は毎食、チェック表に記録して把握している。減少などみられる場合は食事形態や水分の種類を変更してみるなど職員間で検討をし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員見守りと必要な方は介助で口腔ケアを行っている。義歯の方は夜間、洗浄剤を使用し清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄チェック表で確認し、声掛けと誘導している。夜間はオムツ使用の方もいるが日中はリハビリに交換しトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表により、様子を見て、案内、誘導をしている。日中はほとんどの利用者がトイレを使用し、職員の介助を得ている。一斉の声掛けは、食事前、就寝前などである。全員がリハビリパンツにパットを併用している。夜間のおむつ使用は1名で、トイレ利用者は3名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で確認し、状況に応じて下剤を使用して便秘を解消している。日頃からヨーグルトなど乳製品を提供して予防に取り組んでいる。他、ラジオ体操を日課として体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回で入浴予定を立てているが、個々の希望に合わせて時間、曜日は臨機応変に支援している。他、好きな音楽をかけるなど個々に合わせ入浴を楽しめるよう支援している。	毎日の入浴可能であり、利用者は週に2回は入浴できるように支援している。入浴を嫌がる方もおり、順番を変更したり演歌を浴室で流したりと工夫している。入浴が利用者と職員とのコミュニケーションの場となっている。ヒートショック対策にストーブを設置している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝他、食後の休息など個々のペースで過ごされている。夜間は居室の室温、湿度に気を配りエアコンの温度調整をして気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスがないよう飲みこみまで確認している。薬の内容は個人別にすぐに確認できるようにして変更あった場合は看護師に報告と通院録で職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等から得意なことなどを把握し、出来る方には食事準備、洗濯干し等手伝っていただいている。レクリエーションは歌、ゲーム等日替わりで行い楽しみごと、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在外出は制限しており通院、散髪以外はほとんど外出していない。通院の帰りなどドライブをして気分転換を図っている。通院は数名ご家族の協力を得ている。	天気の良い日は、外を散歩している。お米やスーパーの買出しに同行する利用者もいる。今年はお祭りやマラソンを見学することが出来た。数人によるドライブ、受診後のつつじ見学や海岸の周遊など、利用者の意向に沿って対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方はなく、ご家族より預り金として施設で管理している。必要なもの他、要望等があった時は買い物は職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人よりご家族と話したい時は、いつでも電話をできるように支援している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日がまぶしい時はカーテンを引き調整して換気、湿度、室温に気を配っている。季節の花を飾ったり手作りの装飾を飾って季節を感じていただけるようにしている。他、トイレ、浴室は衛生面に気を付けて常にきれいにするよう心掛けている。	温度や空調は、エアコン、床暖房、空気清浄機で管理され、室内はクリーム色を基調とした暖かい雰囲気となっている。利用者は、3階のロービーのソファや食事用テーブルのお気に入りの場所に腰掛け、テレビ、趣味などでくつろいでいる。クリスマス飾りのほか、壁には、活動写真、手作りの作品が貼付されている。歌の好きな利用者が多くカラオケもできるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格、相性等に配慮し食席を配置している。日中は気の合う利用者同士で会話をしたりテレビを見て過ごされる方、ソファでゆっくりとされる方と思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人とご家族の意向に合わせ、居心地よく暮らせるよう持ち込みたいものを持ってきていただいている。	温度は、床暖房で管理され、温度、湿度計を設置している。ベッド、箆箆が配置され、布団、衣装ケース、テレビ、家族写真などが持ち込まれている。加湿器は利用者の持込である。夏は、窓に冷房の送風機を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの真ん中に大きなカレンダー、時計を掛け日時がわかるようにしている。一人ひとりの状態に合わせての支援、見守りで安全で安心して暮らせるよう努めている。		